

The image shows a modern architectural courtyard. On the left, a wide wooden staircase leads up. The courtyard is flanked by multi-story buildings with glass facades. In the center, there is a large, lush green tree. The sky is blue with some clouds. The overall atmosphere is bright and modern.

京都産業大学

キャリア形成支援プログラム

大学と社会を「むすんで」、未来を拓く人材を「うみだす」。



大学と社会を「むすぶ」。 専門の学びにつながる キャリア形成支援プログラム。

キャリア教育センター長
法学部 教授
久保 秀雄（くぼ ひでお）

産業界と連携した学習プログラムで 根幹的な実力を養う

京都産業大学では1990年初頭、他大学に先駆けてキャリア形成支援教育を開始しました。1999年には、インターンシッププログラムを正式な科目として設置。当初から直接的な就職支援としてではなく、社会を生き抜く「根幹的な実力」の育成をめざす“教育”として位置づけ、取り組んできました。現在ではさらに進化し、産業界と連携して人材育成のための学習プログラムを開発する「コーオプ教育※」に発展。学内での「学び」と学外での「実践」を段階的に積み重ねる独自の教育体制を構築しています。その結果企業・団体をはじめ、国や学外との教育機関から高い評価をいただいています。

常に先進的な取り組みに挑戦し、 より専門性に特化したプログラムを実践

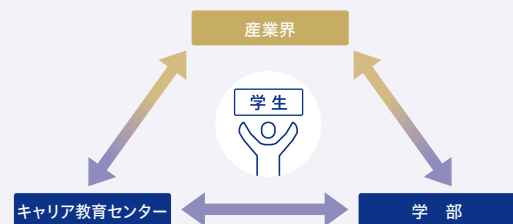
本学では実習協力企業が約440社規模に増え、時代に先駆けた取り組みが社会的に広がってきたと実感しています。本学の建学の精神は「将来の社会を担って立つ人材の育成」です。そのために、本学の理論と産業界での実践を融合した教育で、卒業後直ちに実社会に役立つ実力を身につけた学生を輩出することを使命としています。パンデミックを経験し、オンラインツールの普及、生成AIやネットワーク社会の発展から大学教育も大きく変化しています。しかし、同時にキャリア形成支援プログラムは、“リアル”な就業体験や社会人との直接交流による深い学びの必要性も再認識しています。「インターンシップの推進に当たっての基本的考え方」（文部科学省、厚生労働省及び経済産業省合意）の改正を受け、産学協働教育のリーディングユニバーシティとして、新基準に準拠した「キャリア実習（インターンシップ実践型）」を2023年度に開始しました。近年では「理工系スタートアップ・キャリアデザイン」や「アスリートインターンシップ」など、より専門性に特化したプログラムもスタートさせています。「アスリートインターンシップ」は、体育会クラブ所属学生を対象としたプログラムで「夏期休暇期間は大会でインターンシップに参加できない」「部活動が忙しくインターンシップに注力できない」といった学生の声に応えたものです。もともとアスリート学生は企業から人気があり、多く

※キャリア教育の手法の一つで、教育目標とそれを実現するプログラムや指導方法を企業と教育機関が共同で開発する、長期や複数回の就業体験を含んだ学習プログラム。北米では100年以上の歴史があり、人材育成に成果をあげています。

の企業からインターンシップの受け入れを表明いただいています。2022年3月には、一般社団法人大学スポーツ協会（UNIVAS）のマイナビ賞「キャリア支援に関する優秀取組賞」を受賞し、内外から注目を集めています。大学の本質は「専門の学び」を深めること。そのため、キャリア形成支援教育と学部での学びを切り離して考えることはできません。学んできた専門性を社会でどう活かすか。その推進のため、各学部の専門性を活かせる企業とのタイアップを深め、学生に多彩なプログラムを提供できるよう取り組んでいます。「理工系スタートアップ・キャリアデザイン」「理工系コーオプ教育プログラム」もその一環。直接的な専門分野のみならず、理工系ならではの考え方が活かせる仕事など、学びで培ってきた「力」を大切にしたいプログラムを構築しています。

学生、大学、社会の未来のために 産学連携教育の一層の充実を

さらに、学部独自で実習先を開拓する取り組みも拡がりつつあります。もちろん、学部の教員だけではできない部分はキャリア教育センターが積極的にサポートしていく方針です。



学生にとって大学内は「守られた世界」です。社会に出ることは、その守られた世界から外に出ること。そのため、学生には挨拶や時間厳守など社会の基本ルールはもちろん、責任感を持って挑戦する姿勢を期待しています。また、企業にも「学生が来るから特別なことを」と考えず、ぜひ普段の事業活動を見せていただきたいと思います。それが学生にとってリアルな経験になるはず。学祖荒木俊馬の建学の精神「大学の使命は、将来の社会を担って立つ人材の育成」が京都産業大学には脈々と受け継がれています。社会を担う優れた人材を輩出するためには、キャリア形成支援プログラムの進化と、企業の積極的な協力の「両輪」が不可欠です。今後もより多くの企業に協力いただけることを願っております。



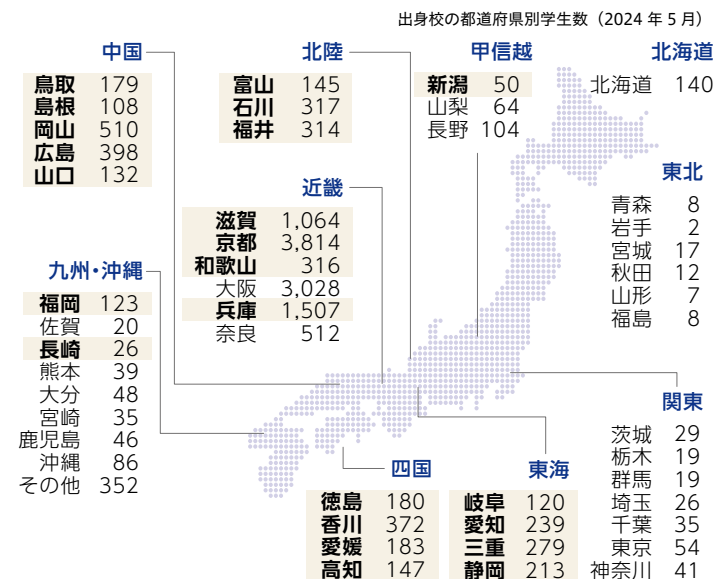
創立 **1965**年

学生数 **15,487**名(2024年5月)

就職率 **98.1**%(2024年3月卒業生)

就職協定締結数 **23**府県

※右図太字参照

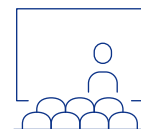


全学部・全年次
対象の16科目を
多くの学生が受講
(2024年度)



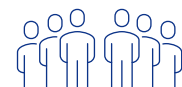
3,744名

多くの教員が
科目を担当
(2024年度)



97名

多くの企業・
団体と連携
(2024年度)



438社

約9割の連携企業・団体が
翌年度も継続
(2023～2024年度)



89.0%

MERIT 受講生受け入れのメリット



社会貢献

本プログラムにより、受講生は、社会で求められる能力を知り、大学での学びの重要性を再認識して、広く深く独自のキャリア観を形成していきます。企業と大学が連携して、将来の社会・地域・産業界などを支える若者を支援・育成することは、広く社会に貢献する活動だといえます。



企業・業界理解の促進

企業や業界の理解は、受講生が企業理念や業務内容について調べる他、実際の業務を通して、より深めることができます。また、それらの情報を互いに共有することから、企業・業界の魅力を広く発信することにもつながります。



社内の活性化、社員の育成

「学生らしいアイデアや視点を新しいプロジェクトに活用する」、「自社価値の客観視や再確認ができる」など、受講生を受け入れることが、社内の活性化につながります。また、社員が受講生の教育を担うことで、自身のキャリア観や業務の棚卸しができ、成長を実感する機会にもなります。



大学と他企業・団体との連携強化

様々な科目において、企業・団体の担当者、大学教職員、学生との交流の場を設けています。業界の現状や、採用状況に関する意見交換などを通して、企業間や大学、学生とのネットワーク構築、新たな出会いの創出といった機会を積極的に提供しています。

学部	学科／専攻	育成する人材	学部データ※	
経済学部 Faculty of Economics	経済学科	現実の経済を論理的かつ多角的な視点から分析し課題解決できる人材	在学生数 2,612人 専任教員数 37人 就職率 98.3%	
経営学部 Faculty of Business Administration	マネジメント学科	実社会で発揮できる、高度なマネジメント能力を持つ人材	在学生数 2,836人 専任教員数 37人 就職率 99.5%	
法学部 Faculty of Law	法律学科 法政策学科	法と社会をむすぶ、紛争解決能力と実践力を有した人材	在学生数 2,495人 専任教員数 46人 就職率 96.6%	
現代社会学部 Faculty of Sociology	現代社会学科 健康スポーツ社会学科	社会を「研究」するだけでなく、実際に「変えていく」次世代型リーダー	在学生数 1,899人 専任教員数 39人 就職率 98.0%	
国際関係学部 Faculty of International Relations	国際関係学科	国際社会の発展と平和に寄与できるグローバル人材	在学生数 815人 専任教員数 19人 就職率 98.8%	
外国語学部 Faculty of Foreign Studies	英語学科 英語専攻／イングリッシュ・キャリア専攻 ヨーロッパ言語学科 ドイツ語専攻／フランス語専攻／スペイン語専攻／イタリア語専攻／ロシア語専攻／メディア・コミュニケーション専攻 アジア言語学科 中国語専攻／韓国語専攻／インドネシア語専攻／日本語・コミュニケーション専攻	高度な語学力と異文化理解力を備え、国際社会で活躍できる人材	在学生数 1,666人 専任教員数 57人 就職率 98.4%	
文化学部 Faculty of Cultural Studies	京都文化学科 国際文化学科	国内外の文化現象を考察し、京都、日本、そして世界をむすぶ人材	在学生数 1,297人 専任教員数 38人 就職率 97.0%	
理学部 Faculty of Science	数理科学科 物理科学科 宇宙物理・気象学科	素粒子・原子核から宇宙まで、自然の真理に迫る人材	在学生数 569人 専任教員数 38人 就職率 95.0%	
情報理工学部 Faculty of Information Science and Engineering	情報理工学科	情報技術×理工学で、未来をデザインする人材	在学生数 659人 専任教員数 30人 就職率 100%	
生命科学部 Faculty of Life Sciences	先端生命科学科 産業生命科学科	研究成果の「探究」と「普及」、2つの切り口から生命科学を生かす人材	在学生数 633人 専任教員数 30人 就職率 98.7%	

※ 在学生数・専任教員数は2024年5月1日現在。就職率は2023年度実績。

類型	取組みの性質	主な特徴	本学が対応するインターンシップ・キャリア実習系科目
タイプ1: オープン・カンパニー	個社・業界の情報提供・PR	- 主に、企業・就職情報会社や大学キャリアセンターが主催するイベント・説明会を想定 - 学生の参加期間(所要日数)は「超短期(単日)」。 - 就業体験は「なし」 - 実施時期は、時間帯やオンラインの活用など学業両立に配慮し、「学士・修士・博士課程の全期間(年次不問)」 - 取得した学生情報の採用活動への活用は「不可」	
タイプ2: キャリア教育	教育	- 主に、企業がCSRとして実施するプログラムや、大学が主導する授業・産学協働プログラム(正課・正課外を問わない)を想定 - 実施時期は、「学士・修士・博士課程の全期間(年次不問)」。 - 但し、企業主催の場合は、時間帯やオンラインの活用など、学業両立に配慮 - 就業体験は「任意」 - 取得した学生情報の採用活動への活用は「不可」	- キャリア実習(職場体験型) - キャリア実習(自己開拓型) - キャリア実習(大学コンソーシアム京都連携型) - キャリア実習(海外職場体験型) - アスリート職場体験
タイプ3: 汎用的能力・専門活用型インターンシップ	・就業体験 ・自らの能力の見極め ・評価材料の取得	- 主に、企業単独、大学が企業あるいは地域コンソーシアムと連携して実施する、適性・汎用的能力ないしは専門性を重視したプログラムを想定 - 学生の参加期間(所要日数)について、汎用的能力活用型は短期(5日間以上)、専門活用型は長期(2週間以上)★ - 就業体験は「必ず行う(必須)」。 - 学生の参加期間の半分以上の日数を職場で就業体験★ - 実施場所は、「職場(職場以外との組み合わせ可)」(テレワークが常態化している場合、テレワークを含む)★ - 実施時期は、「学部3年・4年ないしは修士1年・2年の長期休暇期間(夏休み、冬休み、入試休み・春休み)」 「大学正課および博士課程は、上記に限定されない」★ - 無給が基本。但し、実態として社員と同じ業務・働き方となる場合は、労働関係法令の適用を受け、有給 - 就業体験を行うにあたり、「職場の社員が学生を指導し、インターンシップ終了後にフィードバック」★ - 募集要項等において、必要な情報開示を行う★ - 取得した学生情報の採用活動への活用は、「採用活動開始以降に限り、可」 ★の基準を満たすインターンシップは、実施主体(企業または大学)が基準に準拠している旨宣言したうえで、募集要項に産学協議会基準準拠マークを記載可	- キャリア実習(インターンシップ実践型) - アスリートインターンシップ
タイプ4: 高度専門型インターンシップ	・就業体験 ・実践力の向上 ・評価材料の取得	- 該当する「ジョブ型研究インターンシップ(文科省・経団連が共同で試行中)」 「高度な専門性を重視した修士課程学生向けインターンシップ(2022年度にさらに検討)」は、大学と企業が連携して実施するプログラム - 就業体験は「必ず行う(必須)」 - 取得した学生情報の採用活動への活用は、「採用活動開始以降に限り、可」	

出典: 採用と大学教育の未来に関する産学協議会2021年度報告書「産学協働による自律的なキャリア形成の推進」

CURRICULUM「大学での学び」と「社会での実践」を段階的に積み重ねていく4年間

2025年度キャリア形成支援プログラムカリキュラム

導入・接続教育科目群 科目名			対象：		1 年次		2 年次		3 年次		4 年次	
					春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期
自己発見と大学生活												
ファシリテーション入門												
キャリア・Re-デザイン												

産学協働教育科目群 科目名			対象：		1 年次		2 年次		3 年次		4 年次	
					春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期
キャリアデザイン系 自己を分析し、将来を プランニングする		スタートアップ・キャリアデザイン	学生のみで企業を訪問し、2度のインタビュー調査、見学型職場実習を経て、企業の働く場としての魅力を「魅力発信レポート」として作成・発表します。									
		自己発見とキャリアデザイン	「社会における自らの個性の活かし方」「社会課題と大学の学びの関わり」「産業界と専門科目のつながり」を理解し、卒業後のキャリアプランの明確化を促進します。									
		キャリアのためのビジネスソリューション	産業やビジネス等を対象としたビジネスソリューションの事例などを学びます。日本の産業の特徴やトレンドの知識修得と、自身のキャリア構築を考える動機づけとします。									
		理工系スタートアップ・キャリアデザイン	理工系学部が対象。「自分の専攻する学問の意義」「自身の関心や特性と社会とのつながり」「産業界と専門科目とのつながり」を理解し、主体的な大学・研究生活を推進する力を修得します。									
PBL 系 チームで実社会の課題に取り組む		 オープン ビービーエル1 O/OCF-PBL 1	「個からグループ、グループからチームへ」をテーマに担当教員が段階的に設定した課題に挑戦。自分自身への信頼を高め、意欲的に他者との関係を作ることを目標とします。									
		 オープン ビービーエル2 O/OCF-PBL 2	企業・行政機関等から提供された課題にチームで挑戦し、最終成果報告会で解決策を提案。「社会人基礎力」「自信肯定感」「自在に人と関わる力」「問題解決力」を身につけます。									
		企業人と学生のハイブリッド	企業の若手社員1名と学生3名がチームになり、企業が抱える「リアル」な課題に挑戦。プロジェクト・マネジメント等を学ぶとともに、実社会で「働く意義」についても理解を深めます。									
インターンシップ・キャリア実習系 企業等で実務を経験する		キャリア実習（インターンシップ実践型）	各企業・団体の実際の実務体験を通じて、その仕事に就く能力が自らに備わっているか見極めるプログラム。学生と仕事・職場とのマッチングの向上を目指します。									
		キャリア実習（職場体験型）	“働くこと”への理解を深めるため、体系的な学びを通じて、自らのキャリアを考えるプログラム。企業・業界、仕事内容の理解や自身の興味・適性を知ること、進路を考える契機とします。									
		キャリア実習（自己開拓型）	企業・行政等が独自で募集を行う職場体験等から、学生自身が希望の実習先を探し、実習許可を得る自主的な活動を支援します。本学独自の事前・事後学習を行います。									
		キャリア実習（海外職場体験型）	夏期休暇を利用して、海外にある日系企業や現地企業・団体等で3週間から1カ月の職場体験に参加。異文化での職場体験に加え、本学独自の事前・事後学習を行います。									
		キャリア実習（大学コンソーシアム京都連携型）	（公財）大学コンソーシアム京都主催プログラムとの連携科目として実施しており、同財団のプログラムに加え、本学独自の事前・事後授業を行います。									
		アスリートインターンシップ	体育会クラブ所属学生に特化したプログラムで、多くの体育会クラブがオフシーズンとなる2月に5日間のインターンシップを行います。また、競技生活で日々磨いている自身の強みを自覚し、学業や競技などでその強みを活かすことを目的としています。									
		アスリート職場体験	体育会クラブ所属学生に特化したプログラムで、多くの体育会クラブがオフシーズンとなる2月に5日間の職場体験を行います。自らの就業観を模索するとともにそれを普段の競技生活を通じて、どのように育んでいくのかを自分事として考えられるようになることを目的としています。									

 企業・団体との連携を図り、実習の受け入れや課題提供などの協働をお願いしている科目及びプログラムです。

※新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況により、各科目の授業形態等につきまして、当初の予定から変更になる場合がございます。

◎掲載内容は取材当時のものです。

4 年間の学びの流れ

- 自分を
知る・未来を
計画する
- 社会に
向き合うための
準備をする
- 身につけたスキルを
実践し、高める
- 卒業後のキャリアを
具体的に描き、専門性を深める

詳細はP17へ

詳細はP15へ

詳細はP17へ

詳細はP16へ

詳細はP13-14へ

詳細はP12へ

詳細はP7へ

詳細はP8へ

詳細はP17へ

詳細はP11へ

詳細はP17へ

詳細はP9へ

詳細はP10へ

キャリア実習(インターンシップ実践型)

対象 全学部 3年次 開講時期 6月～9月



文部科学省 大学等における学生のキャリア形成支援活動表彰
2023年度「最優秀賞」を受賞したプログラムです。



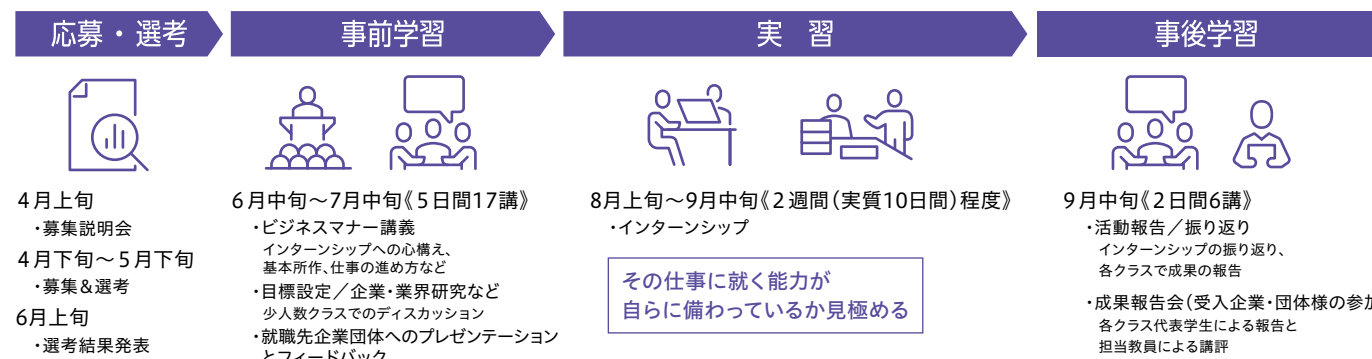
実習先企業からアドバイスを受けている様子

“就業体験”を通じて、その仕事に就く能力が自らに備わっているか見極める本学独自のインターンシッププログラム。本プログラム(1日採用と大学教育の未来に関する産学協議会)基準に準拠したインターンシップであり、各企業・団体の実際の実務を体験することにより、受講生がその仕事に就く能力が自らに備わっているか見極め、将来の仕事・職場とのマッチングの向上を目指します。本学が協力企業と連携して実施するキャリア教育プログラムで、国内の企業・団体での2週間(実質10日間)程度の「就業体験(実務)」を経験し、協力企業・団体の社員から指導いただきます。また、その前後の学内での学習を組み合わせたプログラムです。事前学習では目標設定、企業・業界研究、ビジネスマナー講義など(5日間17講)、事後学習では就業体験から得た学びの振り返り、成果報告(2日間6講)を行います。

！企業様にご協力いただく内容

- 事前学習への参画
受講生の事前訪問対応
- 2週間(実質10日間)程度の受け入れ
- 実習日報の確認・コメントの記載
- 成果報告会・交流会への参加
- 受講生の評価アンケートの回答

プログラム内容



MESSAGE

協力企業

クリエイティブなプログラムで互いに学び合い、成長を手にする。キャリア教育を事業の主軸とする当社では、「日本でいちばん“ひと”が育つ会社」の教育理念をインターンシップにも反映。「学生の自己成長をサポートしたい」との思いで、継続して参画しています。自己理解を深めキャリアデザインスキルを培うことを主眼に、新規ビジネスを創出するチャレンジングなプログラムを設定。学生と社員が双方向に学び合う機会として成果を最大化すべく、プログラムの進化にも注力しています。



株式会社DAY TO LIFE
執行役員 経営管理本部 本部長
上田 勝幸 (うへだ かつゆき)

受講生

真剣に取り組む中で得た、自らのキャリアへの展望。スイーツの新業態企画にチームで取り組みました。競合が少なく、焼き立ての提供でより新規性を持たせられる点からダックワーズ専門店を提案。ターゲット層、店舗の形態や場所、オペレーション、新作展開方法などを含め企画の精度を高めていきました。初めての商材決定に難航し、終始追い込まれながらの悪戦苦闘でしたが、ミッションの深掘りが評価につながる結果に。仕事観が根底から変わる非常に有意義な経験となりました。



経営学部
マネジメント学科 3年次生
渡邊 誠 (わたなべ せい)

教員

実際の業務を経験し、自分の適性、専門性を活かすインターンシップ。本学のインターンシップは先進的な取り組みとして高く評価されています。2022年に政府からインターンシップの新たな方向性が提示され、本科目はその基準に則った内容として、今後のわが国のモデルとなるインターンシップを目指しています。学生は就業体験(実務)を通じて自らの能力、適性等を見極めます。そのため事前・事後授業では大学での学び、自分自身を深く掘り下げ、その後の就職活動にもつなげます。



経営学部
准教授
松高 政 (まつたか まさし)

キャリア実習(職場体験型)

対象 全学部 2年次 3年次 開講時期 6月～9月



文部科学省 大学等における学生のキャリア形成支援活動表彰
2023年度「最優秀賞」を受賞したプログラムです。



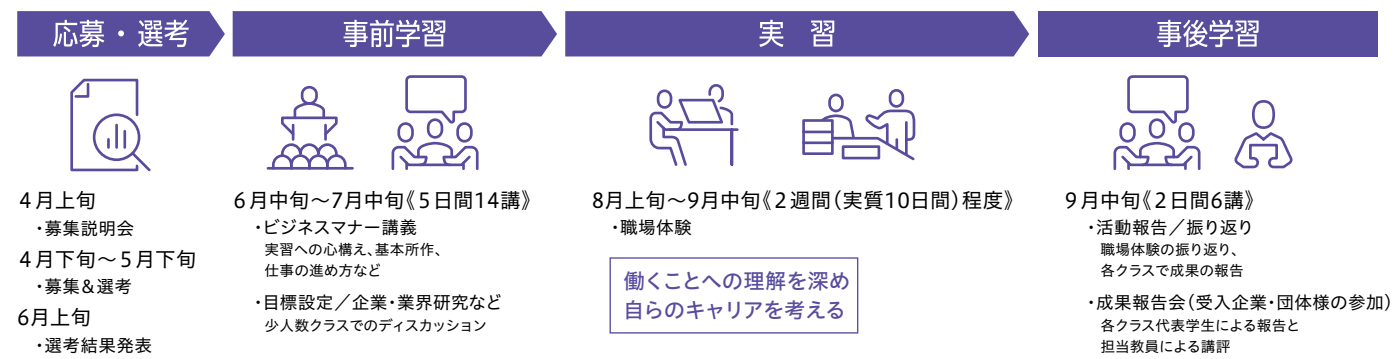
受講生が実習先で業務に取り組む様子

“働くこと”への理解を深めるため、体系的な学びを通じて、自らのキャリア(職業観・就業観)を考える教育プログラム。本学が主導するキャリア教育プログラムであり、協力いただく国内の企業・団体での2週間(実質10日間)程度の「職場体験」と、その前後の学内での学習を組み合わせたプログラムです。事前学習では目標設定、企業・業界研究、ビジネスマナー講義など(5日間14講)、事後学習では職場体験から得た学びの振り返り、成果報告(2日間6講)を行います。本プログラムを通して、企業・業界、仕事内容の理解や自身の興味・適性を知ること、今後の学習生活や卒業後の進路を考える契機とし、学習意欲や就業意欲の向上につなげます。

！企業様にご協力いただく内容

- 受講生の事前訪問対応
- 2週間(実質10日間)程度の受け入れ
- 実習日報の確認・コメントの記載
- 成果報告会・交流会への参加
- 受講生の評価アンケートの回答

プログラム内容



MESSAGE

協力企業

向上心を持ち、臨機応変に取り組む姿勢が印象的でした。キャリアを考えるヒントとなるよう、管理部門の通常業務をリアルに体験してもらうことを重視。社内試験の点数入力や書類の仕分けなどの地道な作業にも、工夫して効率化を図るなど真摯な姿勢に感銘を受けました。一方、採用広報に関するコンテンツ制作でも、各職種に興味を持ち、質問内容を考えて社員インタビューを行うなど積極性を発揮。私たちも、今の学生が求める情報や価値観を知る貴重なきっかけとなりました。



株式会社YKベーキングカンパニー
総務人事部 人事能力開発課
徳田 龍司 (とくだりゅうじ)

受講生

社会で働くことへの認識が変わり、意欲が高まりました。実際の仕事を通して自分と真剣に向き合い、自己理解を深めたいと思い受講しました。事務作業では正確さとスピードの両立に苦心し、計画の重要性を痛感。最終日の発表では、背景や目的を明確にするなど、分かりやすい伝え方を再認識しました。自らの課題に気づくとともに、多くの方との関わりの中で、温かな社風ややりがいを実感。「仕事は辛いもの」という固定観念がなくなり、就職への意欲が格段に高まりました。



経済学部
経済学科 3年次生
曾田 知里 (そた ちさと)

教員

就職への不安を自信に変える貴重な機会となっています。本科目は学生が働くことをイメージし、職場の雰囲気やコミュニケーション、自らの適性を知る入門編となっています。事前学習で参加企業について調べ、発表。グループワークに真剣に取り組むなかで積極性が増し、多様な意見を吸収したうえで明確な目的意識と目標設定のもと職場体験に臨みます。企業の方から厳しくも温かいフィードバックをいただくとともに、事後学習で体験の意味を振り返り、社会に出る自信を深めています。



現代社会学部
准教授
木原 麻子 (きはら あさこ)

アスリートインターンシップ



UNIVAS AWARDS 2021-2022

マイナビ賞「キャリア支援に関する優秀取組賞」を受賞したプログラムです。

対象 体育会クラブ所属学生 全学部 3年次 開講時期 12月～2月

体育会クラブ所属学生の潜在的な強みを顕在化し、実社会で活かす！

体育会クラブ所属の3年次を対象に、協力企業における1週間(実質5日間)の就業体験と、その前後に学内で実施する事前・事後学習を組み合わせたプログラムです。受講生が日々取り組む競技生活で得た学びや経験と、実社会との繋がりを意識することで、日ごろから磨いている強みを自覚し、自らの能力を見極めた上で進路選択ができる力を養うことを目的としています。

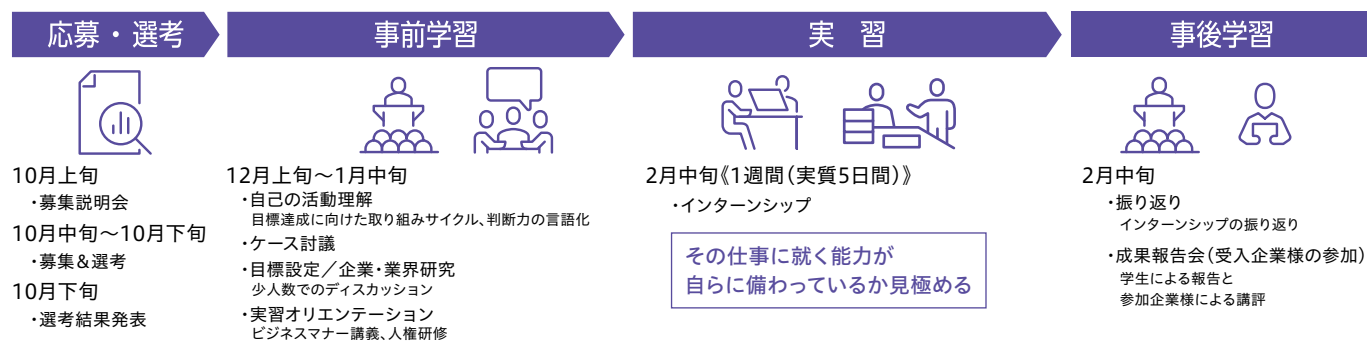


成果報告会で発表している様子

！企業様にご協力いただく内容

テーマ 実習最終日の 報告テーマ 設定	受講生による 問合せ対応	1週間(実質5日間)の インターンシップ 受け入れ	実習日報の確認・ コメントの記載	成果報告会・ 交流会 への参加	受講生の評価 アンケートの 回答
------------------------------	-----------------	---------------------------------	---------------------	-----------------------	------------------------

プログラム内容



MESSAGE

協力企業

積極的に向上をめざす姿勢に
アスリート学生の可能性を実感。

社会人としてのマナーを習得し、営業のやりがいやものづくりの楽しさを感じてもらえるよう営業同行を実施。担当者それぞれの挨拶や会話を通じたお客様との信頼構築を体験してもらい、複数の施工現場見学も組み込みました。当社の新入社員の仕事ぶりからも積極的に学びを得て、次第に報告・相談ができるようになり成長を実感。社内のアスリート学生への評価もいっそう高まりました。



株式会社鴻池組
大阪本店 総務部
堀 順一 (ほり じゅんいち)

受 講 生

営業同行や施工現場の見学を体験し
就職への意識が大きく変わりました。

実社会を体験し、就職への意識を高めたいと考え受講。営業同行では、何気ない会話の中に信頼構築のポイントがあることやマナーを徹底されている姿が印象的でした。施工現場では多くの人が関わり完成することを実感し、各業務への興味も深まりました。積極的に質問・相談して効率よく進める重要性和ともに、向上心を持ち意欲的に取り組む姿勢を学べたことが最大の成果だと感じています。



経済学部
経済学科 2年次生
田口 隼 (たぐち はやて)

教 員

体育会・部活動で活躍する
アスリート学生ならではの
経験・"強み"を将来に活かす

アスリート学生は、対戦相手だけでなく自分との戦いも続けています。より高い目標達成を目指し、仲間と共に練習やトレーニングで自らを研鑽する日々は『PDCAサイクルを回す』経験の蓄積。社会で活かせる“強み”の1つです。“判断力”、“決断力”などアスリート学生がもつ高い資質も言語化して理解を深め、企業実習と併せて将来に生きる学びを提供します。



共通教育推進機構
准教授
松尾 智晶 (まつお ちあき)

アスリート職場体験

対象 体育会クラブ所属学生 全学部 2年次 3年次 開講時期 12月～2月

競技における取り組みが社会でも通用することを自覚し、働くことを理解する！

体育会クラブ所属の2・3年次を対象に、協力企業における1週間(実質5日間)の就業体験と、その前後に学生で実施する事前・事後学習を組み合わせたプログラムです。日々の競技生活で得た学びを言語化し、自らの強みを認識した上で、社会で「働く」ということへの理解を深めることを目的としています。

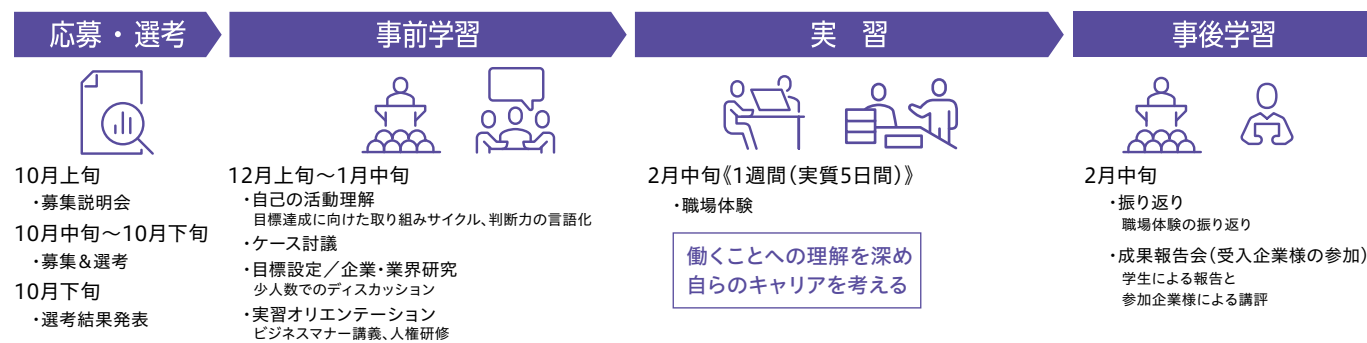


実習で得たことをプレゼンテーションする様子

！企業様にご協力いただく内容

テーマ 実習最終日の 報告テーマ 設定	受講生による 問合せ対応	1週間(実質5日間)の 職場体験受け入れ	実習日報の確認・ コメントの記載	成果報告会・ 交流会 への参加	受講生の評価 アンケートの 回答
------------------------------	-----------------	-------------------------	---------------------	-----------------------	------------------------

プログラム内容



イベント会場で実習に取り組む様子



学生同士で成果物を作成する様子



実習を経て企業担当者からフィードバックをもらっている様子



企業における業務内容の説明を受ける様子

キャリア実習(海外職場体験型)

対象 全学部 2年次 3年次 開講時期 6月～9月

海外での職場体験を通じて、
グローバル社会で活躍できる人材を育てる！

学生の夏期休暇期間(8月～9月)中に海外にある日系企業や現地企業・団体等で3週間から1ヵ月、職場体験の受け入れをお願いしています。渡航前には業界研究・異文化理解・危機管理に関する講義を実施し、現地で就業体験をした後、帰国後は振り返りや成果報告を行います。



ニュージーランド：出版社での実習の様子

！企業様にご協力いただく内容



3週間から1ヵ月の
職場体験受け入れ



ビザ取得に必要な
書類作成・手続き



実習日報の確認・
コメントの記載



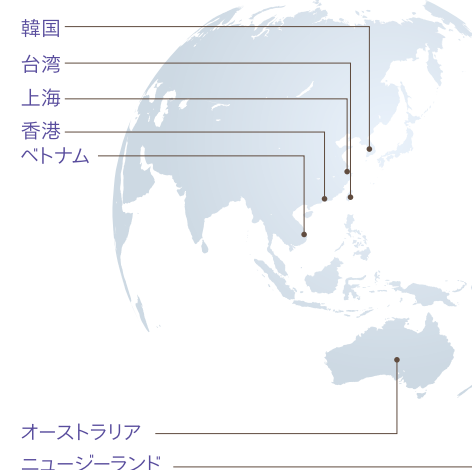
受講生の評価
アンケートの回答

プログラム内容

賃 金	不要
宿 舎	費用は本人負担、ホームステイ、ホテル、ゲストハウス等(ご紹介歓迎)
在留資格	ワーキングホリデービザまたはそれに準ずるビザを取得の上渡航予定 ※書類作成・提供などのご協力をお願いする場合がございます。
スケジュール	～12月 職場体験内容調整 12月～2月 登録票ご提出&協定書締結 3月～6月 募集説明会・選考など 6月～7月 事前学習 8月～9月 職場体験&受講生の評価 9月 事後学習 9月 アンケートの回答&提出

・必要な語学(レベル)や経験などがございましたら内容調整時にご教示ください。

過年度実施先(実績)



MESSAGE

受講生

“グローバルな仕事”のキャリアを
具体的に考える契機になりました。

ベトナムの日系旅行代理店でツアーの
アテンドや予約確認などを担当。責任が
伴う中で英語を話すためらいを払拭し、
一人で任されるまでに成長できました。
現地スタッフや日本人社員の方との交流
を深め、働き方や価値観に触れたこと
も大きな学びに。“グローバルな仕事”に
おける多様な選択肢の中で、希望の働き
方を考える貴重なきっかけとなりました。



文学部
京都文化学科 3年次生
浅川 穂 (あさかわ ゆたか)

教 員

異文化の中でのチャレンジが
キャリア形成に大きく寄与。

一人で現地の職場に飛び込み働く経験
は、学生に旅行や留学では得られない
成長をもたらします。自らの殻を破る挑
戦はアイデンティティを見つめ直す契
機となり、日本と海外の働き方の違いも
理解したうえでキャリア形成の礎を築
いていきます。その挑戦を支えるのは明
確な目的意識。渡航前の目標設定を重
視し、万全の準備で送り出しています。



国際関係学部 国際関係学科
教授
植原 行洋 (うえはら ゆきひろ)

企業人と学生のハイブリッド



経済産業省 社会人基礎力を育成する授業30選

2014年度に経済産業省の「社会人基礎力を育成する
授業 30選」に採択されたプログラムです。本学は唯一、
複数プログラムが採択されました。

対象 全学部 2年次 3年次 4年次 開講時期 秋学期

若手社員と学生のプロジェクトで、企業課題を解決。

若手社員1名と学生3名とのハイブリッド(Hybrid:混成、融合)によるチームで、企
業が抱える「リアル」な課題に4ヵ月かけて挑戦。リーダーシップ、プロジェクト・マネ
ジメント、論理的思考などを学びます。若手社員の育成に主眼を置いており、参画さ
れる若手社員を対象に、担当教員による事前研修、事後の振り返りも実施。若手社
員がリーダーシップを発揮して学生をまとめながら、課題解決の提案に向けプロ
ジェクトを進めていきます。その過程は、社員、学生の双方にとって、「働く意義」につ
いて考え、理解を深める機会になっています。



チームで成果報告を行っている様子

！企業様にご協力いただく内容

〈メンター〉



受講社員との課題解決
の進捗の共有および
それらに対する指導



中間報告会、成果
報告会への
参加・評価

〈受講社員〉



授業への参加



中間報告会、
成果報告会への
参加・発表



チームの課題解決に
関する進捗管理・
マネジメント

□ 2024年度課題 ※一部抜粋

- ・新規顧客の獲得と店舗の活性化。
- ・コンプライアンス遵守に向けた体制構築と維持。
- ・新卒採用につながるツールの1つとして有効的なInstagram活用戦略。

MESSAGE

協力企業

課題を設定し、ゴールに導く難しさ
を乗り越え、自信につながりました。

入社5年目の社員としてマネジメント力を培うと
ともに、学生さんにもキャリア形成の糧となる成
功体験を手にしてほしいとの思いで取り組みま
した。目標としたのは、インナーブランディング
により当社のグループ全体の一体感を高めるこ
と。施策の方向性を探る過程では、課題を設定
しゴールへと導く難しさを痛感しました。意欲
的な学生の皆さんと議論を重ね、問題や条件な
どを整理。自動車事業部のお客様に当社が共
同オーナーを務める京都ハンナリーズを紹介す
るとともに、社員同士の交流・共感にもつなが
る支店イベントの企画・実施にこぎつけました。全
社アンケート実施や今後のイベント展開プラン
も盛り込んだ充実した内容となり、今後の自信
につながる経験となりました。



株式会社マツシマホールディングス
社長室 社長補佐 企画本部 PRコミュニケーション
坂山 芽生 (さかやま めい)

受講生

別次元の存在だった“企業”が身近に
なり、働くことへの意欲が高まりました。

将来起業を目指していて、これまでも課題
解決型の授業で成長できた経験から、迷わず
受講。インナーブランディングを目的としたイ
ベントを企画する中で、グループのみんなが
違和感を覚えた場面がありました。「本当に
この方向性で合っているのか」。確信が持て
ず、マイナスの言葉さえ飛び交うように。そこ
で、担当の方や先生に思いをぶつけ、根本か
ら目的を見直して全員が納得できる内容に
軌道修正していきました。若手の社員の方と
同じ目線で議論し、やりがいを共にしたこと
で、別次元だと思っていた企業での仕事が身
近になったことも嬉しい成果。今回長所だと
気づけた企画力を発揮できる仕事を、幅広い
業界から積極的に探していきたいです。



経営学部
マネジメント学科 3年次生
林 翔梧 (はやし しょうご)

教 員

企業人と学生がチームで取り組む
ユニークな科目。

本科目は、大学の授業でありながら、目的とし
ては若手社員の育成に軸足を置いた全国的
にも他に例のないユニークな科目です。部下
を持ったことのない若手社員が、学生という
3名の部下をまとめ、成果に対する責任を
持って取り組みます。まず自分の会社や仕事
を説明する難しさを知り、自らの仕事の意義
を振り返ります。さらに、メンバーと信頼関係
を築き、チームとして機能させていくことが求
められます。そして、メンバーの能力を把握し
た上でのスケジュール管理も不可欠です。一
つのゴールに向かって取り組む格闘の中で、
学生の姿勢も真剣さを増し、通常のPBLとは
違ったリアリティのある仕事体験を手にして
います。



経営学部
准教授
松高 政 (まつたか まさし)

O/OCF-PBL



経済産業省 社会人基礎力を育成する授業30選

2014年度に経済産業省の「社会人基礎力を育成する授業 30選」に採択されたプログラムです。本学は唯一、複数プログラムが採択されました。

実社会の課題に取り組み、
解決のためのスキルや心構えを培う。

「O/OCF-PBL(On/Off Campus Fusion-Project Based Learning)」は、大学(On Campus)での学びと実社会(Off Campus)での学びとを融合(Fusion)させた、課題解決型学習(PBL:Project Based Learning)科目です。
学生が社会で活躍する力を身につけるためには、非定型的で答えのない実社会の課題に取り組む実践が不可欠です。1年次から2年次までの一貫したプログラムによって、企業や行政機関等からいただいた課題にチームで取り組み、「課題解決スキルの修得」と「主体性や社会性をはじめとする能力の伸長」を図っていきます。



成果報告会の様子：企業から提供された課題に対し解決策を提案

企業様にご協力いただく内容



課題の提供



課題解決に向けた調査活動
(見学やヒアリングなど)へのご協力



中間報告、成果報告会への
参加・評価

2024年度課題

課題提供機関	課 題
株式会社インダ	『インダの森』を活かした新たなCSR活動を企画しよう！
Daigasエナジー株式会社	学生自身が考える【ONLY ONE CAMPUS】でのカーボンニュートラルのあり姿
彌栄自動車株式会社	京都の街のコンシェルジュ☆ 21世紀の【ヤサカ】を共につくる若者の募集戦略を立案
京阪ホールディングス株式会社	京都・伏見を舞台にした新しいイベントの企画提案！
株式会社JTB京都支店	JTBのリソースを利用し、サステナブルな社会に貢献できるビジネスモデルを考案せよ
京都市動物園	京都にある動物園の役割って何？京都の自然の豊かさを知り、その素晴らしさを伝えてほしい
TOWA株式会社	TOWA×学生×第三者 第三者目線に立ち、就活生への知名度アップ・エンタリー意欲促進のための施策考案
シミズ薬品株式会社	若い世代の接客業に対する“魅力を伝える”ためのプログラム
株式会社フラットエージェンシー	空室をゼロに！学生が好む人気物件を作り出せ！
京都鉄道博物館	京都鉄道博物館に「Z世代」を誘致せよ！

プログラム内容

O/OCF-PBL 1

対象 全学部 1年次 開講時期 秋学期

「チーム」として機能するためのスキルを学ぶ

「個からグループ、グループからチームへ」を目指し、教員が段階的に設定した課題に挑戦。自己成長トレーニングシステムに沿って、「自分自身への信頼を高める」「意欲的に他者と関係がつけれる」等目標に人間関係構築力を養います。



知識を学び、ワークで体感する様子

O/OCF-PBL 2

対象 全学部 2年次 開講時期 4～10月

6ヵ月間かけて実際の課題解決を体験

企業や行政機関等から提供いただいた課題にチームで挑戦し、成果報告会で解決策を提案。学内と学外での学びと実践を積み重ねる中で、「社会人基礎力」「自己肯定感」「自在に人と関わる力」「問題解決力」を養います。



中間報告会で企業からフィードバックを受けている様子

MESSAGE

協力企業

動物園の教育機関としての側面から、大学生年代に働きかけられる有意義な機会。

動物園の教育機関としての役割を果たす意味から協力しました。動物園の役割や課題を伝え、それに関連して今回は「生物多様性」の重要性を参加学生が理解し、学内で広めるとともに、社会に向けて発信することを目指しました。学生の大半が動物園に訪れるのは小学生の時からで、大切な役割として「希少種の保全」があることも認識できていませんでした。この現状に私たちも問題意識を新たにするとともに、明確な定義がない「生物多様性」の説明方法を検討する必要を痛感。一方で、これまでの取り組みで労力を注いだ分だけ成果に結びつくことも実感しており、今回も学生たちが企画・実施した社会に発信するための施策は期待以上の内容となりました。



京都市動物園
生き物・学び・研究センター長
田中 正之 (たなか まさゆき)

受講生

解決策の実施まで行う過程で、大きな学びを得られるのがこのプログラムの魅力です。

社会の実際の課題に対し解決策の実施まで行う過程では、限られた日程での課題の理解、実現可能で有効性のある解決策の考案、メンバーとの協働など壁にぶつかる場面も多くありました。特にテーマである「生物多様性」の正しい理解に時間を要してしまい、動物園やきょうと生物多様性センターの方々、学内の先生の多大なサポートを受けながら道筋を見出していきました。最終的に京都市のイベントで生きものの絵合わせゲームを行い、お子さんから専門家の方まで楽しく「生物多様性」に触れていただくことができました。自分たちが理解していった過程を見つめ直して一から発想し、成果につなげることができ、大きなやりがいと学びを得る経験となりました。



国際関係学部
国際関係学科 2年次生
樋口 七優 (ひぐち なゆ)

教員

じっくり段階的に学ぶ科目設計で、受講生全員の主体的な活躍と成長を実現しています。

このプログラムでは、効率性や結果のインパクトではなく、受講生の主体的な意欲と活動を重視。一人ひとりの特性を活かし、多様性を尊重しながら、個々の活躍と能力伸長をめざします。そのため、教員は支援・ファシリテーションのスタンスでクラスを運営。科目設計は、1年次でチームワークの基礎的スキルを養成し、2年次で実践に応用する、段階的に学べる内容となっています。受講生たちは長期間同じメンバーと一つの目標に向け活動し、チームの中で果たせる役割を見つけ実践。着実に自信と成長を手にかけています。企業・団体の皆さまから、受講生の真剣な姿勢を好意的に見ていただき、積極性や行動・思考の柔軟性、提案の実効性について、高い評価をいただいています。



共通教育推進機構
准教授
松尾 智晶 (まつお ちあき)

協力企業実績

年度	2022	2023	2024
協力企業数	11社	10社	10社
受講生数	75名	51名	76名

〈2024年度課題提供機関アンケートより〉

Q 学生の課題報告の成果に対する満足度

A 全課題提供機関が“非常に満足”もしくは“満足”と回答



- ・学生が非常に真面目に取り組んでくれた。
- ・他の企業・団体の悩みや課題を知ることができた。
- ・学生の率直な意見や提案が毎回新鮮で参考になる。
- ・自社側からの目線では分からない視点や考え方が参考になった。
- ・学生の新しい視点や考えに触れることができて刺激的だった。

スタートアップ・キャリアデザイン

対象 全学部 1年次 2年次 開講時期 秋学期

1・2年次からキャリア形成の基礎を培う。

キャリア形成、企業の経営戦略や組織論、企業調査、ビジネスマナーに関する事前講義をふまえて、学生のみで企業を訪問・調査します。2度のインタビュー調査、見学型職場実習を経て、企業の働く場としての魅力を「魅力発信レポート」として発表します。「素の大学生」と交流することで大学生の価値観や考え方を知ることができるため、採用活動や若手社員教育にもお役立ていただいております。



授業（発表会）にて受入企業の魅力を発信している様子

！ 企業様にご協力いただく内容



インタビュー調査の対応
(2回、1回2時間程度)



2日以上(合計9時間以上)の
見学型職場実習受け入れ



インタビュー対応学生
との連絡(メール)



発表会
への参加

プログラム内容

事前学習・インタビュー調査



9月下旬～11月中旬《9講》
・中小企業に関する講義
・企業訪問オリエンテーションとビジネスマナー指導
・インタビュー準備と2回のインタビュー調査

2日以上の見学型職場実習



11月中旬～11月下旬《2日間・9時間以上》
・職場における見学型職場実習と企業の「魅力」取材
・2024年度受入企業実績:11社

事後学習・魅力発信レポート作成



12月上旬～1月中旬《6講》
・「魅力発信レポート」の作成
・学内発表会プレゼンテーション準備と発表

MESSAGE

協力企業

キャリア形成の一步となる
経験を提供していきたい。

実習への要望や興味を知るため対話を重視。学生さんからも「自分と他者の意見が違った時は?」と率直な質問があり、「自分の意見を大切に、周りとの調和も大切に」と答えると、より素直に思いを表現してくれるように。互いの理解が深まり、キャリア形成の一步として貢献できたと感じます。私たちも変化する学生さんの価値観に触れ、会社として変わっていくヒントを得る貴重な機会となりました。



彌榮自動車株式会社
人事部 課長補佐
江畑 明宏 (えばた あきひろ)

受講生

働きたいの意味を考える
有意義な機会になりました。

初めは不安でしたが、連絡の取り方、時間・期限厳守など先生からのきめ細かい指導と、企業の方の温かい協力のもと安心して取り組みました。みなさんが誇りを持ち働かれている様子に感銘を受けるとともに、働きたいは会社の理念や方向性と自分の価値観を融合して自ら生み出していくものなのだと実感。私も視野を広げ、働きたいや社風を重視して職業選択をしたいと思うようになりました。



経営学部
マネジメント学科 1年次生
尾崎 弘美 (おざき ひろみ)

教員

1・2年次から企業活動や仕事への
理解を深め、学びの意欲を高める。

受講生たちが自ら企業に連絡・調整・訪問。企業担当者ややりとりを重ね、社員の方々のインタビューや見学型職場実習を経験する中で、当初の緊張や不安が払しょくされ、知的好奇心と積極性が向上します。最後は一人ひとりが完成度の高いレポートをまとめ立派に発表。1・2年次から、働くことや将来のキャリアへの期待を抱き、大学の学びの意欲を高める貴重な契機となっています。



共通教育推進機構
准教授
松尾 智晶 (まつお ちあき)

理工系スタートアップ・キャリアデザイン

対象 理学部・情報理工学部・生命科学部 1年次 2年次 開講時期 8月

各専攻の学びと社会のつながりについて理解を深める。
解決のためのスキルや心構えを培う。

本科目は、理工系学部(理学部、情報理工学部、生命科学部)の1・2年次を対象とした科目です。理工系学部の強みを活かして、本学のスローガンである「むすんで、うみだす。」力を身につけます。授業はキャリアに関する講義と学生による企業インタビュー及び成果発表の3部構成です。



企業訪問報告会の様子

！ 企業様にご協力いただく内容



インタビュー調査の対応
(2回、1回2時間程度)



企業訪問報告会
への参加



インタビュー対応学生
との連絡(メール)

プログラム内容

事前学習



・自己理解を深め表現しあう講義
・専門領域の学びに関する理解を深める講義
及び企業訪問準備
・企業訪問オリエンテーションと事前準備

第1回 インタビュー



・企業訪問
「第1回インタビュー」

中間



・企業訪問の振り返り
・2回目の企業訪問に
向けての準備

第2回 インタビュー



・企業訪問
「第2回インタビュー」

事後学習



・企業訪問報告及び発表準備
・企業訪問報告会「自らの専門領域の学びと
社会とのつながり」、最終レポートの作成、振り返り

MESSAGE

協力企業

若手社員にとっても、初心に帰り
これまでの仕事を振り返る機会に。

業界・企業への理解を深め、当社の魅力を実感いただけることにも期待し参画。業務の全般的な説明ではなく、“人”の側面から感じ取ってもらえればと考え、若手社員が自然体で対応しました。1年生とは思えないほど意識が高く、インタビューにも一生懸命下調べして臨まれていました。社員としても同じ理系学部出身者として通じ合う面があり、初心に帰って仕事を振り返ることができたようです。



株式会社島津製作所
京都支店 支店長
大屋 重弘 (おおや しげひろ)

受講生

キャリア形成に向けた
課題と目標を発見できました。

キャリア形成の第一段階になればと受講しました。インタビューでは初め質問を十分に準備できなかったのですが、「自分が今後すべきことを考える」という目的を持つことで掘り下げることができ、社員の方にも「答えるのが楽しい」と言っていた嬉しかったです。心に残ったのが「大学時代の理系的思考が役立っている」の言葉。今の自分に足りていないことを痛感し、今後の目標になりました。



生命科学部
先端生命科学科 1年次生
林 優里 (はやし ゆうり)

教員

専門の学びと向き合い、
自身のキャリアを考える。

将来社会で活躍するためには、専門性を深めて自分の武器とすることが重要です。受講前は大学での学びに迷いを感じている学生が多かったのですが、授業後の調査では「目標ができた」「もっと勉強しようと思った」と答えた学生が多くいました。大学の外に出た経験が大きな刺激となったようです。今後も多くの学生に受講してもらい、キャリア形成と専門の学びに向き合ってほしいと考えます。



生命科学部
教授
木村 成介 (きむら せいすけ)

導入・接続教育科目群

自己発見と大学生活

対象 **全学部** **1年次** 開講時期 **春学期**

全10学部混合のクラス編成で、グループワークを中心とした参加型授業です。授業ではグループによるアイデア創出、課題解決や発表を行います。他学部の学生との交流で多様な価値観に触れ、コミュニケーションスキルを身につけていきます。



ファシリテーション入門

対象 **全学部** **1年次** **2年次** 開講時期 **秋学期**

ファシリテーションとは、集団での問題解決、アイデア創造、自己表現など、あらゆる知識創造活動を支援・促進していく活動のことを指します。本授業では、少人数でのグループワークを通して高度な能力開発・組織開発のための態度とスキルの修得を目指します。

キャリア・Re-デザイン

対象 **全学部** **1年次** **2年次** **3年次** **4年次** 開講時期 **春学期・秋学期**
※一部の学部・学科を除く

「大学生活になじめない」「勉強する意欲がわかない」等の状態にある学生を主な対象に、大学生活やその後の将来に対するモチベーションの再発見を目的とした授業です。グループワーク型の授業を徹底し、学部、学科、立場を越えた様々な人たちと関係を築きながら、多様な価値観に触れ、次の一步を踏み出します。

産学協働教育科目群

自己発見とキャリアデザイン

対象 **全学部** **2年次** **3年次** **4年次** 開講時期 **春学期・秋学期**

実社会で活躍される外部講師に登壇いただき、講演内容に対して少人数グループでのディスカッションを行いながら授業を展開します。主体的な大学生活の推進と卒業後のキャリア・プランの明確化、自らのキャリア観を形成する力を高めます。



キャリア実習（自己開拓型）

対象 **全学部** **2年次** **3年次** 開講時期 **7月～9月**

企業、行政が独自で募集を行うインターンシップ等の中から、学生が希望する実習先を自ら探し出し、実習許可を得る自主的な活動の支援を目的とした科目です。夏期休暇中に5日間以上の実習体験を行います。



理工系コーオプ教育プログラム

対象 **情報理工学部** **3年次** **4年次** **生命科学部** **3年次** **4年次** 開講時期 **2月～7月** **11月～10月** *協力企業と調整

専門的な学びの成果を企業や地域で実践。特別研究(卒業研究)の一環として長期のインターンシップに取り組む専門性の高い独自のプログラム。

本プログラムは、情報理工学部および生命科学部の特別研究(卒業研究)で実施されるプログラムです。企業や地域の方々と学生が協働し、ものづくりやイベントの企画運営に取り組んだり、プログラム、ソフトウェア、仕様書、調査レポート、企画書などの提案を行います。教員も企業と共に学生の指導にあたります。社会での経験を各個人の卒業研究につなげることを目指します。



成果報告会(公開)の様子

各学部におけるキャリア教育の取組み

学部	科目名	取組み概要	学部	科目名	取組み概要
法学部	人事・労務 インターンシップ 対象 2年次 3年次 4年次	社会保険労務士や労働基準監督官に興味のある学生が社会保険労務士事務所において就業体験をすることにより、早期に就業イメージを持たせるとともに、今後の学習の意欲を高めることを目的とする。	国際関係学部	国際キャリア 開発リサーチA 対象 2年次 3年次 4年次	カンボジアの首都プノンペンにおいて、商品企画・販売ビジネスを体験するプログラム。東南アジア後発開発途上国での採用・人事の実務、マーケティング、PDCAサイクルなどのビジネスルーチンの実践を通じて、途上国での起業とその運営の実態について学習することを目的とする。
	知的財産実習 対象 3年次 4年次	知的財産業務を執り行う組織(法律事務所等)において就業体験をすることにより、知的財産実務の就業イメージを持たせるとともに、知的財産に関する各講義や演習で得た知識を深めることを目的とする。		国際キャリア 開発リサーチB 対象 2年次 3年次 4年次	東南アジア地域における日本の国際協力現場を知り、地域が抱える社会的課題に取り組むインターンシップ型の実習プログラム。現地コミュニティの課題をグローバルとローカルの文脈で理解し、その解決や新たな可能性に基づく展開を目指した取り組みを検討・提案する。活動を通じ、良きパートナーであるアジア諸国の人びとと共に、互いを知り合い、互いの課題に協働して取り組むことのできる人材を養成することを目的とする。
外国語学部	メディア・コミュニケーション・ インターンシップ 対象 3年次	テレビ局や広告会社などのメディア企業での実習を中心に行う、実践的な授業。番組制作などの現場で実際の業務を体験しながら、実社会で役立つスキルを身につけるとともに、メディア企業がどのように社会に貢献しているのかを学ぶ。		国際キャリア 開発リサーチC (1) 対象 3年次 4年次	東南アジアに進出した日本企業におけるビジネス体験(インターンシップ型)プログラム。日本の製造業企業の東アジア地域における展開を現場で体験し、グローバルな生産・流通・消費のネットワークが東アジアで成立していることを検証する。
文化学部	観光文化学 インターンシップ 対象 3年次	「観光文化学分野に関連する企業・団体等における就業体験」および「就業体験の前後に学内で実施する事前授業・事後授業」を通じて、働くことの意味とは何かについて理解を深めるとともに、実践的に社会人基礎力を身に付け、高めることを目標とする。		国際キャリア 開発リサーチC (2) 対象 3年次 4年次	外国の公的機関等の現場を体験し地域の課題または国際関係に関する実践的活動に取り組むインターンシップ型の実習プログラム。現地の課題をグローバルとローカルの文脈で理解し、課題の解決や新たな可能性に基づく展開を学習し発信する活動に従事する。インターンとして活動することを通じ、太平洋島嶼国の人びとと共に、互いを知り合い、互いの課題に協働して取り組むことのできる人材を養成することを目的とする。
生命科学部	生命科学 インターンシップ 対象 3年次 4年次	本学が協力を依頼した企業・団体等での就業体験と、その前後に本学で実施する事前授業、事後授業を通じて就業観や社会性を養い、具体的な目標を設定して進路に対する考え方を明確化することを目的とする。			

キャリアのためのビジネスソリューション

対象 **全学部** **2年次** **3年次** **4年次** 開講時期 **春学期・秋学期**

この授業では、「ビジネス」「企業」「業界」「産業」などを対象としたビジネスソリューションの事例などを学ぶと同時に、日々進行している産業や暮らしの大きな変化を、具体的な事例から捉え、未来のビジネスにどのような影響を与えるのかを考察します。また、学生自身も自らのキャリアを構築する際に有益なビジネスソリューションのトレーニングを行い、使えるスキルとして習得することを目指します。

キャリア実習（大学コンソーシアム京都連携型）

対象 **全学部** **2年次** **3年次** **4年次** 開講時期 **6月～9月**

(公財)大学コンソーシアム京都が主催するプログラムとの連携科目です。夏期休暇中に企業・行政・NPO・NGO等で2週間程度の就業体験、職場体験を行い、同財団での学習に加え、本学独自の事前・事後授業も行います。同財団の学習では他大学生と共に学びます。

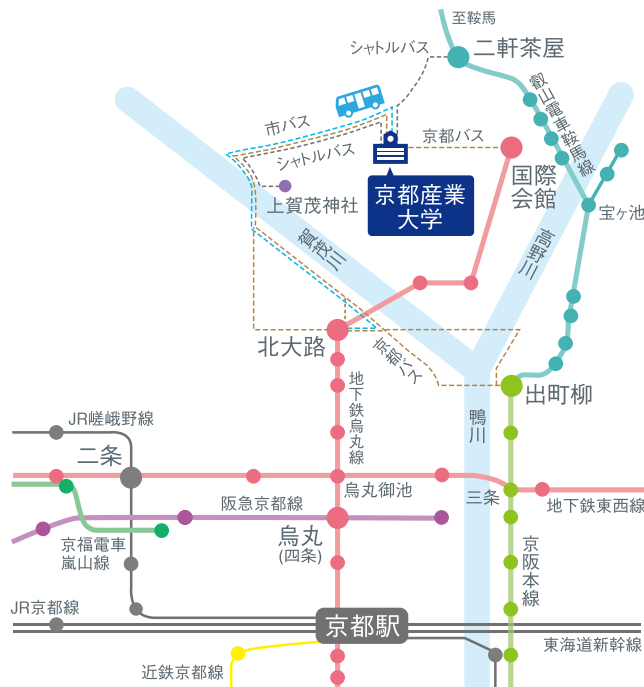
- (公財)大学コンソーシアム京都主催プログラム概要
- ・事前学習(6月～7月):実習に向けた仮説と目標設定。
- ・実習(8月～9月):2週間程度の就業体験、職場体験。
- ・事後学習(9月):実習経験の共有および振り返り。
- 京都産業大学の授業概要
- ・事前授業(7月):オリエンテーションおよび人権研修。
- ・事後授業(9月):実習報告。

アクセス

※乗り換え時間は含みません

京都産業大学の学びの舞台は、豊かな自然と伝統文化に彩られた京都市内。関西主要都市からのアクセスもスムーズです。

- 京都駅から ▶▶ **29分**
- 三ノ宮駅から ▶▶ **1時間20分**
- 大阪駅から ▶▶ **58分**
- 大津駅から ▶▶ **38分**
- なんば駅から ▶▶ **1時間7分**
- 近鉄奈良駅から ▶▶ **1時間18分**
- 京橋駅から ▶▶ **1時間1分**



・最寄り駅から ▶▶ ※所要時間は最短時間で算出しています。

地下鉄	国際会館駅	京都バス9分
地下鉄	北大路駅	市バスまたは京都バス15分
叡山電車 (鞍馬線)	二軒茶屋駅	二軒茶屋シャトルバス5分
	上賀茂神社	上賀茂シャトルバス7分

京都産業大学前



Be Innovative.

京都産業大学
KYOTO SANGYO UNIVERSITY

〒603-8555 京都市北区上賀茂本山



- 経済学部 ● 経営学部 ● 法学部 ● 現代社会学部
- 国際関係学部 ● 外国語学部 ● 文化学部 ● 理学部
- 情報理工学部 ● 生命科学部 ● 大学院

キャリア形成支援プログラムに関するお問い合わせ先

キャリア教育センター(4号館4階)

Tel: 075-705-1754 Fax: 075-705-1939

Mail: cwie-center@star.kyoto-su.ac.jp

[窓口時間] 平 日 / 9:00~16:30 土曜日 / 9:00~12:00
(13:00~14:00を除く)



求人に関するお問い合わせ先

進路・就職支援センター(13号館4階)

Tel: 075-705-1441 Fax: 075-705-1442

Mail: ace-kyujin@star.kyoto-su.ac.jp

